

研究結果報告書

1930～40年代に日本に留学した内モンゴル人についての研究

所属：内蒙古大学 蒙古学学院

役職：教授

氏名：却日勒扎布（他1名）

本研究は、20世紀前半の、モンゴル地域をとりまく内外の状況を視野に入れながら、満洲国と徳王政権時代における内モンゴル人の日本留学史に焦点をあて、日本に留学し、のちに内モンゴル自治運動の指導者となったハーフンガーや文学者サイチンガー等内モンゴル現代史を生きた重要な人物の活動、作品などを考察し、自立を求めた内モンゴル人のその時代の社会的、文化的空間に留まらず、近現代内モンゴル知識人や民族主義者の思想形成の政治的、歴史的背景をも明らかにすることを目的とした。研究代表者と共同研究者が、この目的に沿って、モンゴルと中国、日本の諸文書館、図書館で資料を収集したほか、存命の日本留学経験者から聞き取り調査をおこなうことができた。

上記の調査の成果に基づき、研究代表者は中国でおこなった国際シンポジウムで研究成果を報告したほか、「1930～40年代におけるナ・サインチョクトの経歴とその創作」等2本の論文を執筆し、学術雑誌に掲載された。主にこれまで、内モンゴル現代文学の巨匠ナ・サインチョクト研究において、ほぼタブーになってきた氏の日本とモンゴル人民共和国（現モンゴル）での活動とその作品を考察し、1930、40年代の東アジアという極めて複雑な国際環境のなかで、異なる国で様々なジャンルの作品を創作し、内モンゴルにおける近代文学の展開と革新に大きく貢献したと同時に、政治的モンゴル民族の前途について模索したことを浮かび上がらせ、明かにした。異なる国や地域でのナ・サインチョクトの活動はある程度の柔軟性を持っていたこと等も指摘した。

また、共同研究者の呼斯勒と共同で「新発見の『マンダフ・モンゴル（興蒙）誌』」を執筆し、チンギス・ハーン紀元737（1942）年に創刊され、これまで知られていない週刊誌『マンダフ・モンゴル（興蒙）誌』の編集者、内容及びその性格を検討した。さらに、同誌に掲載された内モンゴル西部地域の指導者デ・ワン（テムチグドンロブ王、徳王）の作品をも分析し、モンゴル人ナショナリズム形成の社会背景やモンゴル人が求めた国家像等を考察し、内モンゴル知識人の政治的志向と日本のモンゴル戦略との矛盾を解き明かした。

共同研究者の呼斯勒は、論文「ハーフンガーと内モンゴル革命」を執筆し、ハーフンガーの1930、40年代の日本での活動を描き出した同時に、ハーフンガーの日本、モンゴル、ソ連、中国など各政治勢力との協力関係を克明に跡付けた。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「1930～40年代におけるナ・サインチョクトの経歴とその創作」(モンゴル語)、チョイラルジャブ、国際シンポジウム「ナ・サインチョクト研究」、2014年7月5日、中国内モンゴル自治区シリンホト職業学校。

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 「新たに発見された1940年代におけるナ・サインチョクトの新文献」(モンゴル語)、チョイラルジャブ、『内モンゴル大学学報』2014年第6号(総第176号)、2014年11月。
2. 「1930～40年代におけるナ・サインチョクトの経歴とその創作」(モンゴル語)、チョイラルジャブ、『モンゴルと東北アジア研究』第1号、2015年6月。
3. 「新発見された『マンダフ・モンゴル(興蒙)誌』」、チョイラルジャブ、呼斯勒、投稿中。
4. 「ハーフンガーと内モンゴル革命」、呼斯勒、投稿中。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)